

## はじめに

こんにちは！ 神経発生学を研究している大隅典子と申します。本書を手にとつていただきありがとうございます。

皆さんはきっと“脳”や“こころ”に興味をもつている方だと想像します。私たちが生きていくためには、さまざまな臓器が働いていますが、なかでも脳は司令塔としての役目があります。こころは脳だけで生み出されているとはいえませんが、脳の働きなくしてこころが成り立つとは思えません。

本書は、そんな脳に興味のある方への入門書です。脳科学への一般市民の関心は高いので、世の中には脳に関する書籍が多数、出回っています。ところが、その多くは遺伝子や細胞レベルでわかつたことについては、あまり触れられていません。また、脳の細胞のなかで神経細胞（ニューロン）よりも数の多いアストロサイトなどのグリア細胞についても、あまり取り上げられませんでした。そこで本書では、筆者の分子生物学や発生生物学のバックグラウンドをもとに、バランスのよい記載を心がけて執筆しました。

また本書では、ただ教科書的に事実を記載するのではなく、なるべく研究を行った科学者たちの横顔が浮かぶようにお話ししたいと考えました。科学の営みも人間が行っています。

本書を読んだ若い方が、「将来、自分も脳科学者・神経科学者になりたい！」と思つてくださつたら、とても嬉しく思います。

筆者はこれまでに、『心を生み出す遺伝子』（岩波現代文庫）という訳書、『脳からみた自閉症「障害」と「個性」のあいだ』（講談社ブルーバックス）や『脳の誕生－発生・発達・進化の謎を解く』（ちくま新書）という一般書を執筆してきましたが、脳科学、神経科学の研究のスピードは加速しています。そこで、本書の最終章では「脳科学研究のいま」として、研究に欠かせない「光遺伝学」というツールや、脳の進化やブレインテックに関する最新の研究成果なども盛り込んでいます。

これまでの『小説みたいに楽しく読める』シリーズの生命科学や免疫学の本と同様、わかりやすい図解があることも本書の大きな特徴です。ぜひ、最後まで楽しんでいただけたらと願います！